特集 前橋市アーバンデザインの策定から始める民間主体のまちづくり

前橋市　都市計画部　市街地整備課

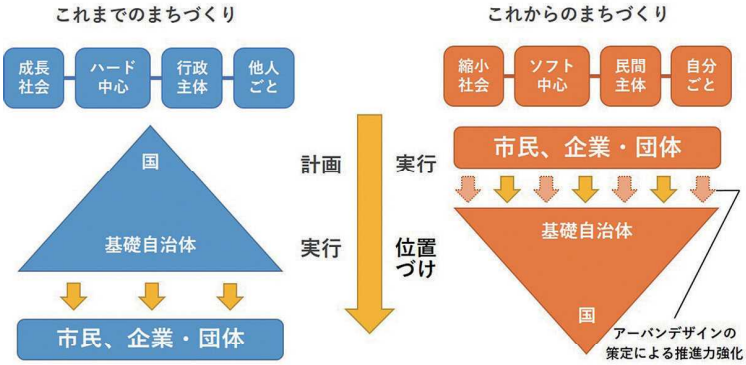
■ 策定の背景

歩道空間を活用したイベントの開催

人口減少社会の到来とともに、地方公共団体の財政がひっ迫している状況下において、行政主体のまちづくりには限界が見え始めています。一方で、まちのユーザーである住民や企業等の民間が主体となった官民連携まちづくりでまちに賑わいを取り戻し、これまで使われてこなかった施設が多くの人に利用されるなど、豊かな公共空間を生み出す事例が複数紹介されるようになっています。

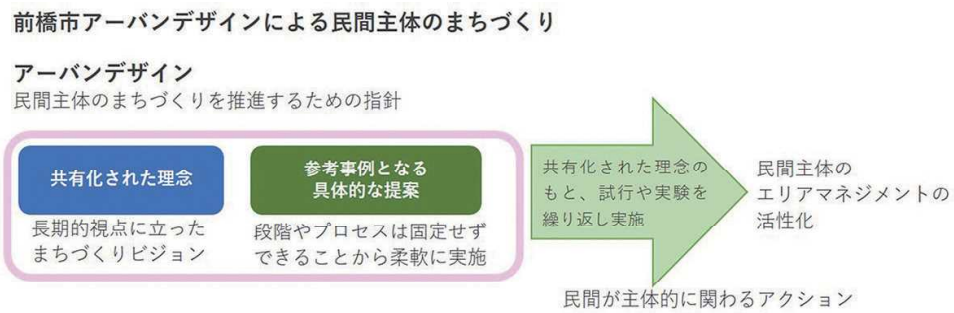
本市の中心市街地においても、民間を主体とする官民連携の様々な取り組みが始まり、まちづくりの主体が行政から民間へ移行する転換期を迎えています。

■ 策定の趣旨とねらい



これまでのまちづくりとこれからのまちづくり

これまでのまちづくりでは、行政が主体となり計画に基づきハード整備などを進めてきましたが、これからのまちづくりでは、まちの主役である民間の主体性を重視するために、「まちでどのようなことをしたいのか」といった声を反映した、まちづくりの理念を官民で共有する必要があります。そこで、様々なステークホルダー(利害関係者)の中立の立場である行政が主体となり官民協働で策定したものが、前橋市アーバンデザインです。前橋市アーバンデザインでは、長期的視点に立ったまちづくりビジョンを共有することを念頭に置き、取り組みの具体事例として示した公共空間の利活用などを中心としたプロジェクトなどを参考に、民間が主体的に関わる実際のアクションにつながるきっかけとなるよう策定しました。



■ まちづくりの方向性と長期プラン

前橋市アーバンデザインは、まちのキーパーソンとなっている方々に参加を頂きワークショップを幾度も重ね、前橋の現状と未来を議論して官民協働で策定しました。こうして掲げられたまちづくりの方向性は３つあります。

１つ目は、都市の便利さと自然と暮らす居心地の良さを兼ね備えたまちづくりを示す“エコ・ディストリクト”です。前橋市の程良い都市規模や環境の良い部分を活かし、賑わいや便利さといったまちの経済的な側面（エコノミー）だけでなく、居心地や快適さ、健康感といったまちの環境的な側面（エコロジー）を両立させようとするものです。街の中に緑や水辺といった自然環境を感じられる居心地の良いオープンスペースを増やしながらも、ICTの活用などによる便利で豊かな生活を送ることが出来るまちづくりを目指しています。

２つ目は、複数用途の混在したまちづくりを示す“ミクストユース”です。昼夜を問わずにまちに人が行き交い、歩いて暮らせる魅力的な生活を目指します。住宅街やオフィス街といった単独用途のまちではなく、“住む”“働く”“商う”“学ぶ”などの用途が混在することにより徒歩圏にて完結した生活が送れるようになり、一日を通して活気のある「住みたいまち」になっていきます。

３つ目は、地域固有の資源を最大限活用したまちづくりを示す“ローカルファースト”です。前橋市が持つ地域固有のあらゆる資源を磨き育て、率先して活用する“前橋らしさ”が感じられるまちづくりを目指しています。前橋市の発展の礎となった絹産業の歴史的な背景や、それに関連するレンガ倉庫、まちなかを流れる広瀬川や駅前から続くけやき並木などの自然や景観的な資源を認識し、積極的に活用して持続的な地域独自の魅力を作り出していくことを目指しています。

この３つの方向性に基づき長期プランに掲げた街路ネットワーク、オープンスペース、土地利用についての改善が進められることで、前橋プライドの礎をより強固にすると同時に便利で健康的なライフスタイルを促進します。緑豊かな屋外空間や建物を含めたまちなか空間が活発に使われて、街の至る所で繰り広げられる様々なアクティビティによって、人々の出会いと交流を生み、クリエイティブな人材が集積・活躍する、多様なライフスタイルを受け入れるまちへと発展してゆくのです。

■ まちの将来像

ワークショップの参加者やまちの関係者から聞き取りをした個別エリアのイメージやアイデアを示す一つの形として作成しました。イメージパースで視覚的に示すとともに、その時に見込まれるライフスタイルも示すことで、より具体的に将来のイメージを共有しやすくしています。

駅前けやき並木通りの将来像

■ モデルプロジェクト

中心市街地の主要な拠点やエリアをつなぎ、高い効果が期待できるプロジェクトの例を①道路空間の利活用、②水辺空間の利活用、③道路空間の再配分による利活用、④低未利用地の利活用といった視点で示しています。実施にあたっては各拠点やエリアごとに官民の役割分担を踏まえた合意形成が重要であり、先進事例の情報共有や社会実験、実証実験を取り入れながら実現性を高めていくことを想定しています。

広瀬川河畔の改善イメージ

こうした方向性やまちの将来像といった普遍的な理念を官民で共有し、モデルプロジェクトといった取り組み例や改善例を、前橋市アーバンデザインとして示し、民間主体による地域まちづくりを進める足掛かりとして活用されることで、長期的な取り組みの中で柔軟にアレンジされ、エリアマネジメントのもと魅力的なまちづくりが実行されていくことを期待しています。そのため、今後は地域まちづくりの勉強会などを開催し、公共空間の利活用やリノベーションまちづくりの取り組みによるエリアマネジメントの活性化を推進して行きます。